



LIFE STYLE CONSCIOUS HOUSE

自然と人生を楽しむ家

山歩きを趣味とする都会育ちのお二人が、
終の棲家を選んだのは、木の香漂う本物の木の家。
自然の息吹に包まれて、豊かな時間が流れている。

Text・Miho Ogihara / Photo・Ryosuke Kanai



東京出身のN様ご夫妻が、山に見える場所に終の棲家を作ろうと考えたのは4年前のこと。当初は森の中にログハウスを建て、広いデッキで野鳥の声を聞きながら食事を楽しむ、絵に描いたような田舎暮らしをイメージしていたという。「とはいえ、都会育ちの僕らがいきなり山の中で暮らすのは敷居が高い。さらに、ログハウスや大きなデッキはこまめなメンテナンスが必要だということもわかって、次第に、木々の息吹を感じながら暮らせる場所に環境に調和する家を建てようと、考えがシフトしてきました」とご主人。奥様が、「以前からスノーシューや山歩きで訪れていたもので、この辺りには親しみがありました。あるとき、これはと思う土地を見つけたので、アポイントも取らないで仲介業者をお訪ねしたんです。それがくじらぐみとの出会いでした」。八ヶ岳南麓の気候や風土などを詳しく教えてもらい、モデルハウスも見学させてもらった。「社長のご自宅でもあるモデルハウスは天然木がふんだんに使っており、自然と調和する家を建てたいという私たちの思いと重まりました」。残念ながら紹介された土地の購入は見送ることにしたものの、信頼できる人という印象と、偶然立ち寄ったカフェやバーカーリーで耳にしたくじらぐみへの賞賛から、家づくりの依頼を決めたという。

周囲に豊かな白樺林、傍らには沢が流れる絶好のシチュエーションに、悠然と現れたN様邸。広い敷地では、シンボルツリーがさわさわと風に揺れている。玄関を開けると、すぐさま漂ってくるこちよい木の香り。スケッチ段階で奥様が一目ぼれしたという土間に誘われ室内へと進むと、突き当りに薪ストーブ、左手には暮らしの中心となるリビングが広がっている。一方、右手にはもう一つの玄関でもある大きなガラス戸。そこから庭へ、その先の森へと生活の場が広がっていて、気持ちがいい。

完成から約半年。少しずつ気に入った家具や大切なコレクションなどを移しつつ、庭づくりにも取り組んで、生活の場を整えてきたというお二人。南側の軒下に置いたベンチで、お天気の良い日にはお茶やブランチを楽しみ、夜には星空を眺めながらゆっくりお酒を味わうのだとこやかに話す姿から、心からこの家で過ごす時間を楽しんでいる様子が伝わってくる。夏休みには二人の息子さんが家族と共に訪れ、虫取りやバーベキュー、敷地内でのキャンプなどを存分に楽しんだそうで、もうすぐ訪れる冬にも、きっと賑やかな思い出が紡がれることだろう。この日初めて火入れをしたという薪ストーブの揺らめく炎とお二人の華やかな笑顔。豊かな時間のその先に、幸せな未来も垣間見えた。



- 1_ リビングの一角で存在感を示している本棚は、くじらぐみのオリジナル。長年のミニカーコレクションを納めたいというご主人の要望を受け、ガラス戸付きの棚を熟練の大工が丁寧に創り上げた。
- 2_ 愛用する民芸調の食器やかごが映える、シンプルで機能性の高いキッチン。奥様の目線に合わせて造られた窓の外には、白樺林が広がっている。奥に設えた大容量のパントリーも使い勝手抜群。
- 3_ 土間の突き当り、リビングの一角に設置された憧れの薪ストーブは、家中をこころよく温めてくれ、煮込み料理やピザ、焼き芋なども楽しめる優れもの。まっすぐに伸びた煙突も美しいアクセントに。
- 4_ 屋根勾配を利用し十分な高さを確保したロフトは、窓から存分に光が差し込むとっておきの隠れ家。ご主人が、愛用の楽器や愛蔵のポスターなどを並べ、秘密基地を整備中。
- 5_ 1階奥に設えた寝室は、壁の色を抑えて落ち着いた雰囲気。ロールスクリーンを上げると自然の風景が広がり、窓を開ければ鳥の声や川のせせらぎが聞こえてきて、爽快な朝を迎えることができる。

HOUSE BUILDER

大工集団 くじらぐみ

山梨県北杜市大泉町西井出 8240-6959
Tel.0551-38-8151 Fax.0551-38-3979

WEB



資料請求



自然と人生を楽しむ家

HOUSE DATA



〔甲府市〕N様邸／1LDK＋ロフト／2022年竣工

FROM BUILDER

自然素材や国産材を用い、昔ながらの木工技術を駆使した、シンプルな家づくりを信条としています。ビニールクロスやプリント合板といった新建材は使用せず、家を支える土台や柱にはひのき、他の部分は、性質を鑑みた上で、色や肌触りなどお客様の好みやご希望に合わせて決めていきます。今回のお宅は、都会に住むお客様からの「自然の中に溶け込むような家を作り、終の棲家としたい」というお話を受け、提案させていただきました。最大のポイントは、玄関からリビングまで続く長い土間。薪ストーブの設置場所であると同時に屋内と庭をつなぐ出入口ともなっていて、大窓から外の風景を愛でたり、深い軒下と繋げて寛ぎのスペースとして利用したりと、日々の暮らしのエッセンスになっています。

PICK UP POINT



山小屋の雰囲気醸す納戸（なんど）

玄関脇にキッチンからも出入りできる大容量の靴箱と納戸を設置。天然木をふんだんに使用したことで山小屋を彷彿とさせる雰囲気が醸成され、お二人のお気に入りの場所になった。靴箱の対面にはパンチングボードを採用し、収納力と使い勝手をUP。お二人は、ひっかけ金具を使用してぼうきや山歩き用のグッズをバランスよく配置し、インテリア感覚で見せる収納を楽しんでいる。